

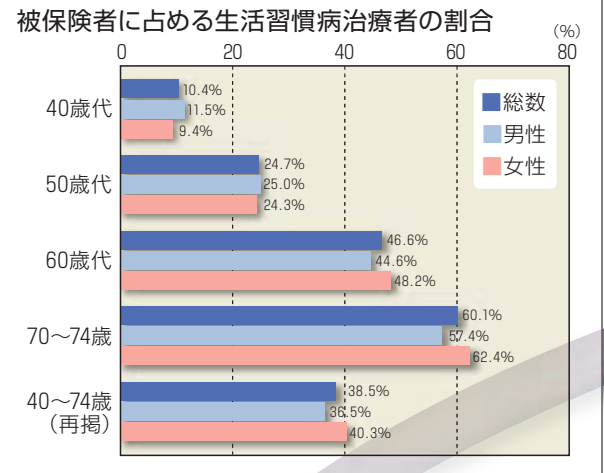
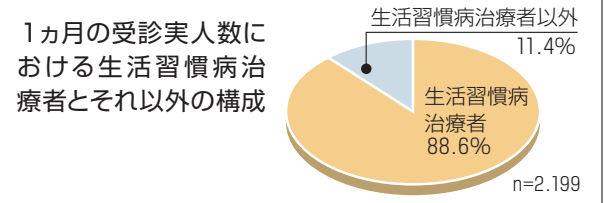
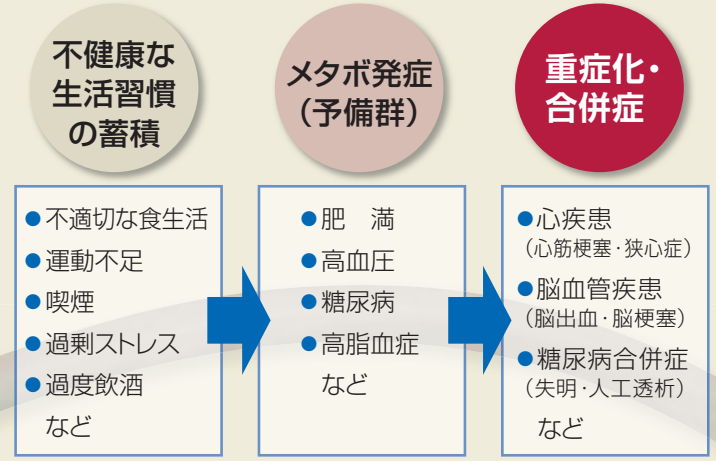
あなたの健康が、
次の世代に影響します…

「特定健診」を
受けよう！

メタボリックシンドローム (内臓脂肪症候群)とは？

内臓脂肪型肥満(内臓のまわりに脂肪のついた状態)に加え、高血糖、高血圧、脂質異常という生活習慣病の危険因子を2つ以上あわせもった状態のことです。日々の不健康な生活習慣の積み重ねで進行し、自覚症状が無いので、放置しておくくと動脈硬化を進行させ、重大な病気になるまで気付きにくいのが特徴です。治療には、内臓脂肪を減らす努力が必要で、健診を受けることが重要になります。

静かに忍び寄る メタボリックシンドロームの恐怖



平成20年4月から、これまでの基本健診が廃止され、新たに40歳から74歳を対象にした「特定健診」、「特定保健指導」が始まりました。

この「特定健診」は、脳卒中や心筋梗塞などの生活習慣病を予防するため、メタボリックシンドロームとその予備群を早期に見つけることを目的としています。

調べて解る 生活習慣病の多さ

国民健康保険の平成18年10月診療分を調査したところ、1ヵ月間に何らかの病気で医療機関を受診した74歳までの被保険者は、2,199人で、このうち生活習慣病で治療した人は、1,948人(88.6%)を占めています。この数は、被保険者の26.2%にあたります。そのうち、40~74歳の生活習慣病治療者は、1,893人(男性848人、女性1,045人)に上っています。実に、97.1%の治療者が40~74歳の被保険者なのです。

このように、40~50歳代の人々が生活習慣病になることが多く、早い時期から生活習慣の改善、予防を行うことが重要になります。働き盛りのこの年代。仕事を頑張るのも家族のためですが、健康であり続けることも家族のためと思いませんか？

ため、健診に行こう！

特定健診を受けましょう
(健診受診状況から)

町が平成18年度に行った基本健診結果から、国保加入者の受診状況をみると、40歳から74歳の受診率は表のとおり、若い年代の受診率が低く、特に40歳代で著しく低く、全体の4分の1を下回っている状況です。

平成18年度
国保被保険者基本健診受診率

	男性	女性	全体
40歳代	26.5%	22.9%	24.7%
50歳代	34.9%	44.4%	39.7%
60歳代	42.5%	49.2%	46.2%
70~74歳	39.6%	36.2%	37.7%
40~74歳	37.2%	41.3%	39.3%

誰だってあなたの健康を願っています

国は、5年後に受診率の目標を65%にしています。もし、達成できなければ、国民健康保険の後期高齢者支援金(各保険者が後期高齢者医療制度の財源として支援するお金)が最大で10パーセント加算され、その財源は国民健康保険税でまかなわなければならなりません。しかし、達成するためには、1,000人以上の健診を受けていない人が、新たに受診しなければなりません。これは容易なことではありません。

健康を受け、健康でいることは、次世代に影響することになるのです。しかし、健診を受けよう。

健康とは、空気のようなもの。無くなればその大切さが身に沁みます。しかし、無くなってからではもう遅いのです。自分自身が健康で明るく過ごすために、大切な家族、子どもや孫、仲間のために、まずは健診を受診しましょう。

